夢を持って野球ができる喜びを

―市川ドリームスター―

運動やスポーツには体力の向上はもちろんのこと、ストレス解消や病気の予防、またコミュニケーションを取る機会が増えることによる人間関係の向上など、様々な効果があると言われています。小さい子どもから高齢者までの幅広い年代で運動やスポーツを行うことで、私たちは生活に潤いと活気をもたらしています。

しかしながら、人によっては時間的に余裕がない、身体的に自由がきかないなど、様々な理由から十分に取り組めない方も多いと思います。

今回は、身体的な障害を抱えながらも、野球を楽しみ、真剣に打ち込んでいる身体障害者野球チームを紹介します。運動やスポーツの楽しみ方は、人それぞれです。人生をより豊かにするためにも、まずは出来ることから始めてみませんか。

市川ドリームスター結成

「ナイスバッティング」「ナイスピッチング」。そんな声を交わしながら、市内のグラウンドで練習をするのは、県内唯一の身体障害者野球チーム「市川ドリームスター」の面々。目標に向かって、練習に取り組んでいます。

チーム結成のきっかけは、小笠原道大選手が2008年に神戸の身体障害者野球チームを視察したことでした。楽しく生き生きと野球する姿を見て感銘を受け、さらに地元千葉県にチームが無いことを知ると、NPO法人G2プロジェクトを設立し、チームを結成しました。市川ドリームスターのチーム名には「夢を持って野球をしてもらいたい」という気持ちが込められています。

うまくいかなくても何度も挑戦

経験・年齢・性別は問わず、現在チームメンバーは11名、10代～40代と幅広く、月1～2回の練習や練習試合を行っています。選手各々で不自由な部分が違うため、片手が麻痺して動かない選手は、動く手だけでバットを振り、足が不自由な選手は打った後に打者代走として違う選手が走ります。ミスをしても全員で声をかけ合い、カバーし合いながら最後まで全力でプレーしている姿が印象的です。

チームの目標に向かって

G2プロジェクト代表の笹川秀一さんによると、チームの当面の目標は日本身体障害者野球連盟に加盟することと、試合でまず1勝することと語りました。まだ結成して約2年の市川ドリームスター。夢を持って野球ができる喜びを噛みしめています。

身体障害者野球とは

身体障害者野球は、身体障害者手帳を持つ肢体不自由者と療育手帳（人数制限有り）の所持者が行い、年齢・性別の制限はない。また、走ることが困難な場合は打者代走が認められ、バント・盗塁は禁止などのルールがある。試合は7回までだが、それぞれの試合で制限時間が設けられており、時間をオーバーすると最終回より前に終わることもある。全国大会や世界大会もあり、現在は全国で32チームが加盟している。身体障害者連盟に加入するには、1チーム12名以上の登録が必要。

小笠原道大選手がGMで支援

県唯一の身体障害者野球チーム

「怪我などで野球を諦めてしまった人達などに、まだ野球をできる方法があることを呼びかけていきたい」「夢を諦めずに挑戦し、一生懸命プレーすることが大事」。そう考え、県内唯一の身体障害者野球チーム市川ドリームスターを結成しました。

また、10年以上前より毎年、市川市社会福祉協議会に寄付活動をしています。

▲写真提供読売巨人軍

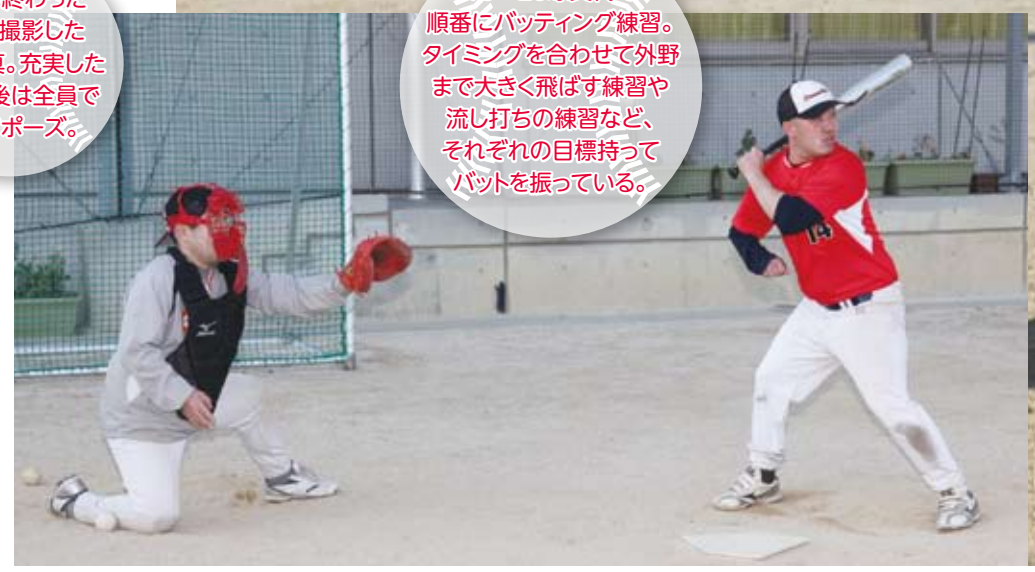
「市川ドリームスター」ゼネラルマネージャー
読売巨人軍所属
小笠原 道大 選手

キャッチした球をフワリと浮かせ、グローブを外す様子。ここから再度素手でキャッチして相手に送球をする。

ウォーミングアップでのキャッチボール。全身を使い力強く返球。

DreamStar

練習が終わったあとに撮影した集合写真。充実した練習の後は全員でガッツポーズ。



10～20球交代で順番にバッティング練習。タイミングを合わせて外野まで大きく飛ばす練習や流し打ちの練習など、それぞれの目標持ってバットを振っている。

【代表インタビュー　笹川秀一さん】
夢を持って楽しく野球を

NPO法人「G2プロジェクト」代表の笹川秀一さんにお話しを伺いました。

「『地域に根付くことがやりたい』という想いを小笠原選手が持っており、2008年に神戸の身体障害者野球チームを視察したのがきっかけです。千葉県にチームが無かったため、最初は市内にチラシを配ったり、関係者に協力いただいたりして希望者を募りました。人から人へと口コミなどでさらに広まり、現在の11名が集まりました。実際にチームを結成したのは2011年4月ですから、今年で3年目のまだまだ若いチームです。」

県内唯一のチームですので、市外の方も多く在籍されていますか。

「半数以上は市外在住者です。ですので、市外の方も遠慮せず、参加してもらいたいですね。」

過半数が市外在住者であることには驚きました。12名から身体障害者野球連盟に加盟できるため、もう少し集まれば連盟に加入申請するとおっしゃっていました。

チームとしての目標を尋ねると、

「まずは試合で1勝することですね。連盟に加入しなくても出場できる試合はありますから。これまでは他チームとの合同チームで練習試合を行っていましたが、4月28日に初めて市川ドリームスター単独で練習試合を行いました。負けはしましたが、単独チームで試合に臨めたことは大変意義があることだと思います。」

これからさらなる発展・成長を目指す市川ドリームスター。選手募集について伺うと、「まだまだ募集しています。最初は見学だけでも大丈夫です。興味のある方は☎080・3200・2904またはg2project@softbank.ne.jpまでご連絡ください。」

全国有数のチームになることを楽しみにしています。

【選手インタビュー　宍倉丈夫さん】
目標に向かって一生懸命

市内在住の宍倉さんにお話しを伺いました。身体障害者野球を始めたきっかけはなんですか。

「自分はチームメイトに誘われたのがきっかけです。それまではサッカーチームに所属していたのですが、ある事情でサッカーチームが練習できなくなり、悩んでいたときに自分が住んでいる市川市に野球チームがあると聞き、参加しました。」

練習を見ていると、声を出し、打って走っての大活躍。身体の具合を伺ってみると、「自分は、先天性の四肢麻痺なんです。小さいころは歩くことさえ難しく、リハビリの毎日でした。しかし、リハビリを重ねて、今はチームメイトと野球を楽しくやっています。目標は試合でまず勝つことですね。」と熱く語ってもらえました。

私が取材させてもらった日も、参加している全員が楽しく声を掛け合いながら、厳しくも、和気あいあいと練習を行っていて、ユニフォームが汗とホコリでみるみるうちに黒くなっていきました。

これからの活躍を期待しています。

身体障害者野球で使う主な道具。基本的に普通の軟式野球と変わらない。ボールは軟式で、バットは金属製を使う。